

● vi エディター

vi はUNIX系OSではよくつかわれるエディタプログラムです。
起動方法は以下のようになります。

vi [ファイル名]

ファイル名が存在する場合はそのファイルを開き、存在しない場合は新しいファイルが作られます。
vi エディタでは、カーソルを動かすために [h] (←), [j] (↓), [i] (↑), [l] (→)キーを使用します。
但し l は小文字のエルです。

(ここまでのキー操作はすべて小文字であることに注意大文字は意味が異なります。)

このように、割り当てられているコマンドキーを押すことでそれぞれの動作をするようになっています。

● T O P I C

どうしてこのようなわかりにくいキーが割り当てられているかというと、昔のUNIX環境はUNIXワークステーションに複数の端末を接続して複数人数で作業を行うマルチユーザー環境でした。

そこで接続される端末には様々なものがありそれぞれの端末の最低限の機能から動くように設計されています。
前に説明した \$TERM 環境変数は様々な端末の表示を行う為に使われるエスケープシーケンスと呼ばれるコードとその表示法がTerminfoやTermcap(Terminfo以前)により定義されています。

文字	機能	
a	行の最後に文字を追加するモードに移行します。	モード終了時[ESC]キー
i	カーソル位置に文字を挿入するモードに移行します。	モード終了時[ESC]キー
yy	ヤンクバッファよばれるコピーバッファに1行取り込みます。 複数行読み込みたい場合はnnyyとします。但しnnは数字	
p	ヤンクバッファの内容を行の下に追加します。文字の場合はカーソル文字の前に追加	
P	ヤンクバッファの内容を行の上に追加します。文字の場合はカーソル文字の後ろに追加	
dd	行を一行削除しヤンクバッファに保存します。 複数行削除したい場合はnnyyとします。但しnnは数字	
J	現在行の後ろに下の行を結合します。	
s	1文字置換するモードに入ります。 複数文字の場合はnnsとします。但しnnは数字	モード終了時[ESC]キー
cw	一単語置換するモードに入ります。 一単語は同種の文字が連続している固まりを意味します。	モード終了時[ESC]キー
u	前回の操作をキャンセルします。	
[Ctrl]ws	現在の編集画面を分割します。	
[Ctrl]ww	下の分割画面に移ります。	

文字	機能	
x	一文字消去しヤンクバッファに保存複数文字消去する場合 nnxとします。ただしnnは数字	
nnG	n n行目に移動する。ただしnnは数字で最終行は\$	
:q	現在の編集画面を閉じます。	[ESC]で編集モードに戻る
:w	現在の編集内容をファイルに上書きします。	[ESC]で編集モードに戻る
:w q	現在の編集内容をファイルに上書きして閉じる。	[ESC]で編集モードに戻る
:w !	強制的に上書きする。	[ESC]で編集モードに戻る
:q !	強制的に編集画面を閉じる。	[ESC]で編集モードに戻る
/String	Stringで示される文字列を検索し移動する。 次の検索結果に移動するにはnを前に移動はNを押す。	[ESC]で編集モードに戻る
:s/str1/str2/	str1を1つ探し出してstr2に置換する。 繰り返す場合 :s 行の範囲を指定するには:n,nn s/str1/str2/ ただしn < nnの数字 全て置き換えるには :1,\$ s/str1/str2/g ただし1,\$は1行目から最終行を示す。 gをつけないとその行の先頭マッチングのみ	[ESC]で編集モードに戻る

●共用サーバーにログインして自分のフォルダを作成後何かファイルを作ってみてくださいね。